

ヤマノイモ科 ヤマノイモ属

ヤマノイモ (山の芋)

Dioscorea japonica Thunb.

自生環境

林縁、道ばた など

原産地

日本在来

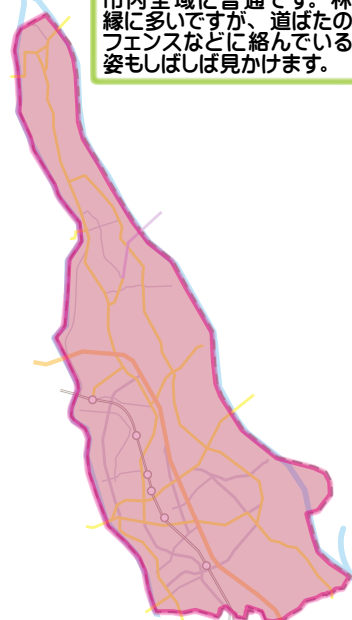
生育を脅かす要因

{今のところ特になし}

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に育つ植物として、やさしく見守る気持ち大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域に普通です。林縁に多いですが、道ばたのフェンスなどに絡んでいる姿もしばしば見かけます。



特徴

- ☆ 山の芋の名前がありますが、山林内に限らず、いたるところでごく普通に見られる多年草です。市街地でも道ばたのフェンスや植え込みにつるを絡ませている姿をよく見かけます。根は自然薯(じねんじよ)とも呼ばれ、食用になります。
- ☆ 雌雄別株で、雄株と雌株が別々に存在します。ただ花や果実がない状態での判別は困難です。花期は夏で、雄株・雌株ともに白い小さな花がつけます。両者は花のかたちやつきかたが異なり、雄株の穂が上向きなのに対し、雌株の穂は下向きに垂れ下がるようにつけます。
- ☆ 夏から秋にかけて、葉のわきに直径1cmほどのむかごができ、これも食べられます。むかごは繁殖手段のひとつで、これが地に落ちると芽を出して、新しい株として成長を始めます。

芋は毎年新しくなる

ヤマノイモは多年草で、株の充実とともに地中にできる芋もだんだん大きくなります。しかしじつは、1つの芋が何年もかけて少しずつ伸びていくのではなく、毎年春に新しい芋をつくって完全に入れ替わります。新しい芋は、古い芋が蓄えた養分を取り込み、新しく取り入れた養分も蓄えて、前の芋より大きく育ちます。ヤマノイモの芋の部分を担根体(たんこんたい)と呼ぶこともあります。



雄花
花の穂は
上向きにつく



夏~秋、葉わきに
むかごができる

雌株は秋になると
果実の穂がぶら下がる



雌花
花の穂は
垂れ下がる



すき間に
薄っぺらい
タネがあり
風でひらりと舞う



芋は下に
向かって
まっすぐ
のびる。
1mくらい
の長さにも
なることも

たんこんたい
担根体
(芋)



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

